

# 2-4

演題	Aams の導入 失敗と混乱からの学び
副題	～ ICT の活用でどこまで改善を行えるか?～


法人名	社会福祉法人 ユーアイ二十一
施設名	太陽の家座間

発表者名 (職種)	森 祐介 介護職員
共同発表者	藤田 智之
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	座間市座間 2-861-1
TEL	046-298-5133
FAX	046-298-5132
メールアドレス	jinzai_ikusei@ui21.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	太陽の家座間は 2015 年 10 月座間市に開設した入所 100 名短期入所 20 名のユニット型特別 養護老人ホームで、居宅介護支援事業所と職員のお子さんを預かるための保育室を構えている。 最寄駅は JR 相模線「入谷駅」と小田急小田原線「座間駅」2 駅可能
---------------------------	---

## 研究の目的、PR ポイント

新しい機器を導入すると、少なからず混乱や不満などが上がる。それらの問題点を抽出し、より職員が安心して使用できるよう改善を行うのと併せて、今後新たに導入する施設での参考になればと思い実施。

## 取り組んだ課題

aams とは、株式会社バイオシルバー様より販売されている、ベッドマットレスの下に設置するタイプの見守り介護ロボットで、a\_安心・a\_安全・m\_見守り・s\_システム、略して aams(アアムス)。aams は、センサーマットをマットレス下の適切な位置に設置することで、感知される心拍・呼吸・体動・離床がサーバーを通してモニターに表示される。深い眠り・浅い眠り・覚醒の情報もリアルタイムで確認できる。見守りカメラも併用でき、起き上がり時や離床した際に iPad やパソコンで live 映像を確認できる。aams 導入により入居者様と職員にとって何が変わったかを検証。

## 具体的な取り組み

導入してからの不満点・混乱点・改善点等についてアンケートを実施。

### 【良かったと思える点】

- ・ ベッド上での起き上がりに気付ける
- ・ 看取りの方の状態変化に気付きやすい
- ・ 入眠状況を把握できるため利用者様の安全確保や職員の負担が軽減された

### 【改善して欲しい点】

- ・ 感度設定等の問題でセンサーが頻繁に鳴ってしまう

## 活動の成果と評価

事例① ・ A 様 (ご逝去された方)

1 ヶ月ほど前から状態の低下が顕著となり、看取りケアとなっていた。

夜間帯で離床コールが鳴り、駆けつけると呼吸が止まり始めていた。

ご家族へ電話連絡、到着時に呼吸は停止していたが、

まだ体感の温かいご本人様に会っていただくことができた。

【事例振り返り】 すぐにご家族へ連絡ができたことはもちろんあるが、場合によっては医師や看護師、家族などに心拍などのグラフを基にいつ呼吸が止まったかなど根拠を持った証明として提示できる「安心」もそこにある。

事例② ・ B 様 (夜間帯に転倒され骨折された方)  
夜間は独歩され、自身で排泄・臥床等行っていた。朝、起床介助の為職員が訪室。介助するが端座位から臀部すら上がらない。看護師とともにボディチェックするが、左膝に皮膚剥離がある程度で痛み等訴えなし。その後も立位困難な状態が続き、さらに痛みも出てきた為緊急受診し、左大腿骨頸部骨折の診断で入院となった。事故検討時 aams のグラフを確認すると、普段休まれている 22:30 過ぎから不自然な覚醒が多くみられ、転倒の時間帯が推測することができた。

【事例振り返り】 夜勤中データを見て、普段との違いがある際には訪室し、事故・急変の早期発見へ繋げるという対応の変更へと繋げることができた。

## 今後の課題

aams は細かなバイタルサインの変化が目に見える情報としてあるので、根拠を持ったケアを行うためには介護に切っても切り離せないものとなりつつある。特に看取り期は精神面の負担軽減が顕著で、職員から「aams があって良かった」という声が多く聞かれる。

令和 3 年 4 月 1 日の介護報酬改定で、見守り機器等を導入した場合における人員配置基準の緩和の中で、テクノロジーを有効活用して、いかに入居者様に質の高い生活支援をしていくのかを考えていく必要がある。